動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

93.7.30 No.3836

組織拡大の先頭に！

千葉労組交流センター第3回総会を開催（7月25日）

千葉労組交流センターは、七月二五日船橋市・勤労市民センターにおいて、第三回定期総会を開催し、激動する情勢のなかで本格的な労働運動をおしすすめることを確認した。

総会は四〇名の会員の参加のもとに、宅間一久代表運営委員の主催者あいさつで始まった。　来賓のあいさつでは、三里塚反対同盟の伊藤信晴さんから、この間の「空港シンポジウム」による敷地内農民切り崩し攻撃をはねかえしたこと、今後の「新たな協議機関」設置による反対闘争破壊を許さず原則を守り闘いぬくことが表明された。

さらに、「PKOを許さない千葉の会」よりあいさつを受けたのち、運営委員より、総括・情勢・方針、財政報告等の提起が行われた。

続いて特別講演にうつり、東京労組交流センター代表の三角忠氏より「都議選総括と組織拡大の展望」と題した講演を受けた。労組交流センターとして初めて本格的に取り組んだ東京都議会議員選挙をとおして、広範な労働者の組織化にむけた展望が大きく切り拓かれたことが、このなかで明らかにされた。

その後、質疑討論に移り、九三春闘や不当処分撤回など職場での闘いの報告、「茂原事件」のタイ女性の裁判支援の要請、交流センターの本格的な強化・拡大について、「授業外し裁判」の報告と今後の取り組みなど、活発な討論が展開された。最後に新たな運営委員を選出して総会は終了した。

結集した仲間は、激動する情勢と真っ向から対決する労組交流センターへ突き進むことを決意も新たに確認した。

家族会 育児と教育をテーマに 連続講座

家族会は、七月二五日千葉市社会センターにおいて、連続講座を開催した。

今回は、講師に埼玉の小学校の先生で、埼玉労組交流センターで活躍しておる宮原先生をお招きし、「子どもの教育と育児」というテーマで講演をお願いした。

宮原先生は、(1)現在は子どもと子どものつながりがうすれ、①休み時間に机でひとりでお絵書き・ねん土・折り紙をする子、遊びたくても「入れて」と言えない子、一緒に遊んでいてもちょっとトラブルがあると教室に引き上げてしまう子、時分が遊びたければチャイムを無視して遊んでいる子。

②教科書を忘れた時、忘れた子がとなりの持っている子に「貸して」「見せて」の一言がいえない、持っている子も忘れてきた子に対して「見せてあげる」と声をかけられない。というような子どもが増えている。

(2)政府が臨時教育審議会において主張していることは、子どもと子どものつながりの断ち切りと国（天皇）の下への組み込みという狙いがある。文部省の最も忠実な方針を体現している「教育だより『ちば』七月号」では、「新しい学力観に基づく教育」として「①心豊かな児童・生徒の育成」「②基礎・基本の重視と個性を生かす教育の推進」「③自己教育力の育成」「④文化と伝統の尊重と国際理解の推進」と教師・保護者が反対しにくいスローガンを掲げているが「個性」ということを「家庭、地域、企業、文化、歴史、時代、国」まで拡大し、企業や国に従属させやすい（団結しにくい）個人主義を煽り、「世界の中の日本人」を強調し、子どもを侵略戦争の担い手として教育していこうということが狙われている。

(3)日教組は、自民党・政府・資本と闘わない方針を取り、教育労働者の団結が失われてきている。「子どもの権利」などが方針に掲げられているが、教育労働者の団結した力で子どもを守るという立場が失われてしまっている。

という現在の状況を話されたうえで、

(4)子どもは子どもと子どもの深く広いつながりのなかで人間として成長していくもので教育労働者・労働者の団結と闘いで子どもの人間らしさを取り戻すことが必要がある。と結び、この間の実践に基づいた宮原先生の体験を話された。

討論では、参加された家族会のみなさんが日頃から悩んでいる点などを出し合い、宮原先生の意見を聞いた。

反合・運転保安確立！　反戦・反核を担う労働運動を！